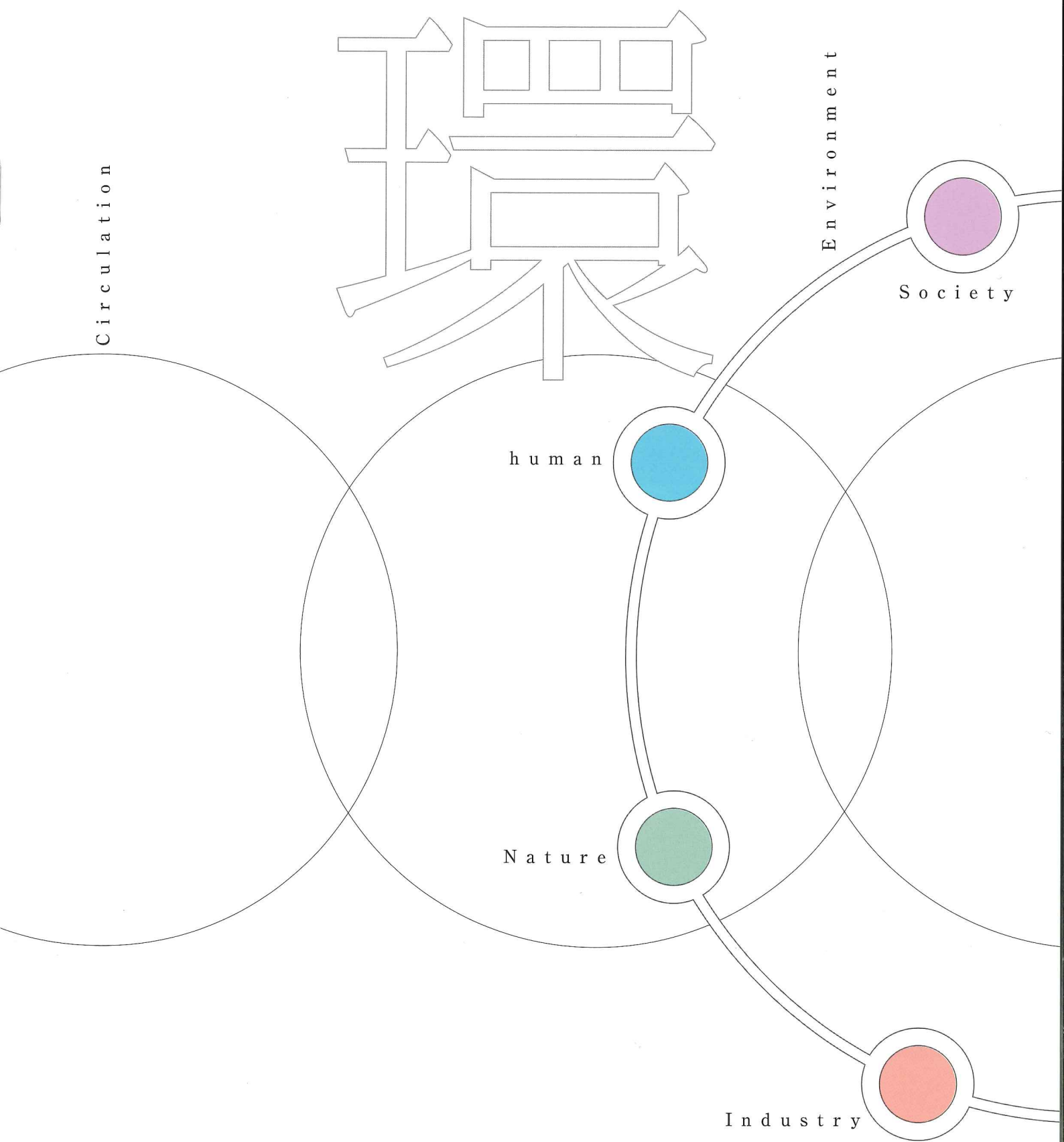
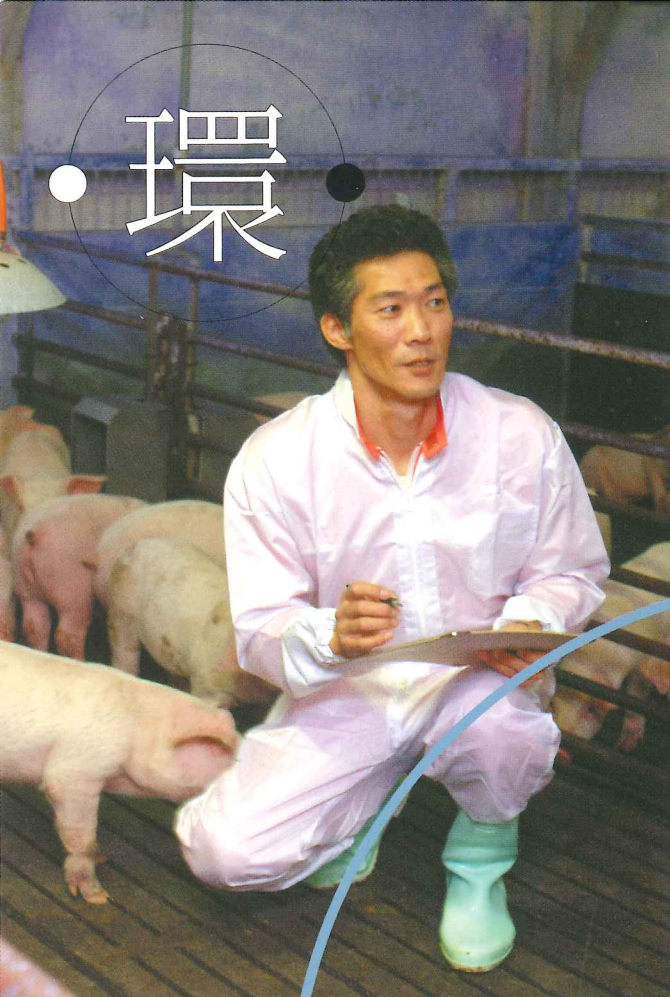




環

食の安全、
それはここでの
最大の使命。



一生懸命な人がいる。
やがて、それは大きな環になる。



食の安心、
それはここからの
メッセージ。

CONTENTS

当社の事業展開	03
養豚事業 ブランドイメージ	05
飼育システム	07
地域・舎内環境	09
SQF/HACCP認証	11
グループ紹介	13

環



企業理念

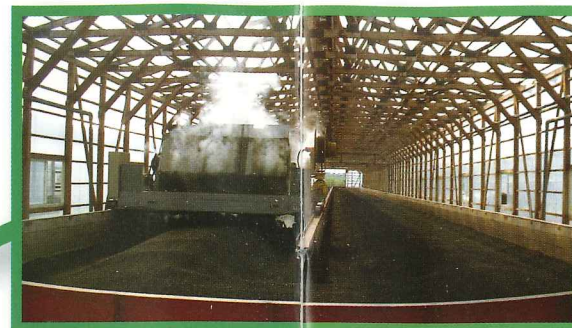
わが社は、「食べる喜び」を基本のテーマとし、
時代を画する文化を創造し、
社会に貢献する。
二、
わが社は、従業員が真の幸せと生き甲斐を
求める場として存在する。

経営理念

高邁な理想をかけた、
その実現への不退転の意志をもって行動する。
二、
人に学び、人を育て、人によって育てられる。
三、
時代の要請に応じて時代をつくる。
四、
品質・サービスを通して、
縁を広げ、縁あるすべての人々に対する
責任を果たす。
五、
高度に機能的な有機体をめざす。

当社の事業展開

肥料事業



農場から排出される糞尿を再資源化するのが、この肥料事業です。有機肥料への需要の高まりを背景に年々事業が拡大し、私たちの飼料事業はもとより、全国で有機野菜づくりに取り組む生産農家への供給もすすめています。

養豚事業

私たちの中核となる事業が養豚事業です。そして、その事業の中からさまざまな枝葉が伸び、新たな事業展開がはかられてきました。それらの事業は、ときに一体となり、ときにサポートし合いながら、中にはひとつの産業として発展していく可能性を秘めたものもあります。

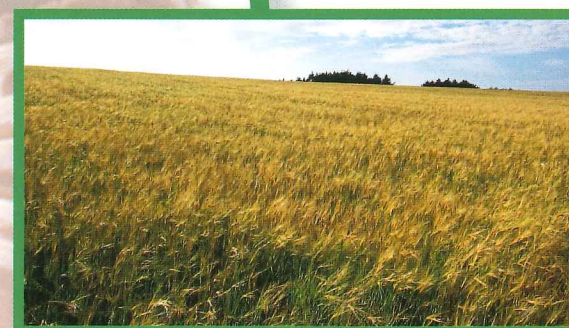


環

The Circle Of
inter farm



当社の農場でも有機肥料の試験のために色々な作物を作っています。この成果を新たな有機肥料の設計に生かしています。



再資源化された肥料は、飼料の生産へとさらに循環していきます。北海道で、飼料を自社生産することで、安全で良質な飼料を、成長に合わせてきめ細かく配合し、品質のよい肉質に仕上げます。

飼料事業

食肉処理工場

私たち「農場」と密接な関わりを持つグループ会社の「食肉処理工場」。生産から処理までの流れにおいて、お互いの歯車を噛み合わせることで、安定供給が可能になります。全国に7カ所ある食肉処理工場は、迅速な処理とともに、衛生面でも最高水準のグレードを誇ります。



当社は、日本最大級の養豚企業として、目的に応じた品種改良や飼料配合、より適切な飼育管理システムの実現などを通して、安全で品質の高い豚肉の生産に取り組んできました。その一方で、食の安全や環境問題への関心の高まりなど、新たな対応が求められる時代となっていることから、養豚事業を核としつつ、飼料生産をも視野に入れた循環型の事業の確立をめざし、さまざまな展開を図っています。地域社会との結び付きを大切にしながら、「幸せな食創り」に貢献できる企業であり続けること。それが私たちの願いです。



養豚事業①

ブランドポーク、それはOPEN品質。

当社のオリジナルブランドには、「北海道けんこう豚」「青森けんこう豚」「知床ポーク」「悠健豚」があり、独自のクオリティ・プログラムやセーフティ・プログラムにしたがい、衛生的な環境のもと、厳選された飼料のみを与えて生産しています。清浄な豚として一般的に知られるSPF豚よりも清浄度が高く、味にしまりがありタンパク質の豊富な豚肉として好評をいただいています。つねに安心と品質のブランドを創造し続けること。それが私たちの使命でもあるのです。



高品質を支える3つのポリシー

1

健康で資質のよい 母豚で生まれた おいしい豚肉

当社の豚肉は、健康で資質のよい母豚から生まれた、やわらかくておいしい豚肉です。みなさんに安心して召し上がっていただくため、私たちは母豚（種雌豚）の生産から始めています。



2

快適な ファーム環境の もとで肥育

豚はきれい好きで繊細、わずかな環境の変化や汚れにも敏感です。そのため豚舎は、1頭あたりの面積を広く取るなど、よりストレスが少なく、のびのびと育つことのできる環境を用意しています。



3

良質な原料から 配合された 飼料を使用

仔豚は、マニュアル化された栄養プログラムのもとで独自に配合された飼料を食べて健康に育っていきます。特に出荷間近の期間には、とうもろこしや麦などを主体としたものを与え、肉質が良くおいしい豚肉に仕上げています。また、疫病予防のための薬物使用は農林水産省の規定内に抑え、可能な限り自然な飼育を行っています。



北海道
けんこう豚

青森
けんこう豚

知床
ポーク

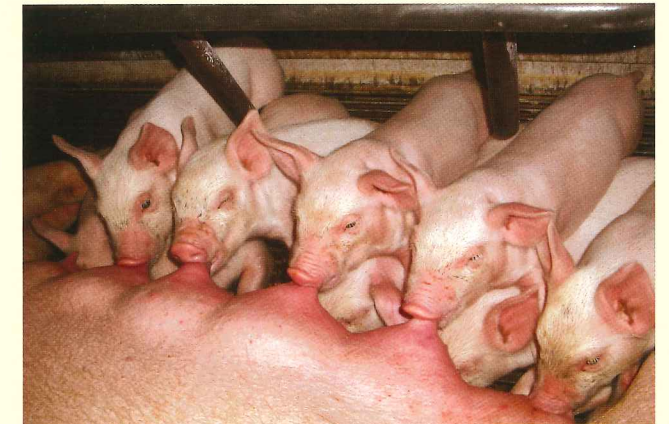
悠健豚

当社のブランドポーク

快適な環境のために



当社の農場は、健康な豚を育てる事を第一に考え、大自然の中にあります。



健康で元気な子豚がスタートです。



子豚はきれいに洗浄・消毒した豚房で育ちます。



成長に合わせ、広い豚房で自由に飼料をたべのびのびと成長します。



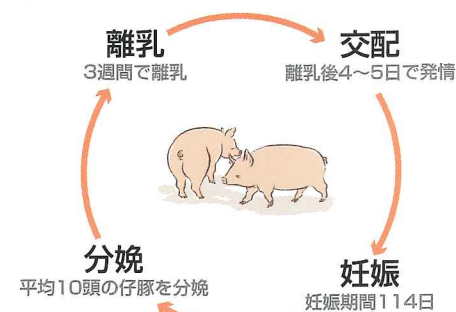
妊娠豚が自由に動き回り、健康でいられる環境を目指し、常に新しい技術の導入を行っています。

養豚事業②

最適な環境のもと、健康な豚を育てる。

あくまで食品を扱っているという強い責任感を持ち、当社のすべての施設・部門は運営されています。豚の飼育環境を整えることによって、薬を使わない管理をめざし、安全性には絶対の自信を持っています。質の良い親から生まれ、最適な環境を経て、はじめて健康な豚が育ちます。柔らかくてコクのある豚肉は、すべての飼育段階で快適に保たれた環境の中から生産されているのです。

母豚のサイクル



肉豚の流れ



生産行程

1

人工授精



当社の農場では、交配は100% AI (人工授精) で行われます。写真はAI用の種豚。



AI用の種豚から採取した精液の検査風景。精子の活力、奇形の有無を検査します。



AI (人工授精) 風景。受精の適期を逃すことなく確実な人工授精を行います。

2

交配・妊娠



交配室内の照明時間と明るさは、母豚の排卵数に影響を与えるので細心の注意を払っています。



交配後25日に、最新の鑑定機で妊娠を鑑定。妊娠が確認されれば妊娠舎へ移動されます。



母豚は交配・妊娠舎に109日間安静に滞在します。

3

分娩



妊娠豚は分娩予定日5日前に分娩舎に移動し2～3時間で10頭の仔豚を産みます。



出生直後、仔豚の体重を測定するとともに、母豚の管理状態もチェックします。



分娩直後から数時間泌乳される母乳 (初乳) には、免疫成分が多量に含まれています。

コンピュータによる管理



生産計画、在籍頭数管理、出荷計画、母豚1頭ごとの繁殖成績の管理等、さまざまな管理にコンピュータを使用しています。

厳しい品質チェック



農場内だけでなく、食肉処理工場でも雑菌の混入などについては厳しいチェックを実施。また、店頭の商品についても、販売会社を通じて鮮度保持状況をチェックするなど、品質に対する万全の体制をとっています。

4

育成



離乳時の計量で、母豚の繁殖成績の目安とします。母豚は交配舎へ、仔豚は育成舎に移動します。



仔豚は環境の変化に敏感なので、コンピュータ制御により温度、湿度、換気をコントロールします。



育成後期になると、穀物主体の飼料に切り替わり、体重もぐんぐん増えていきます。

5

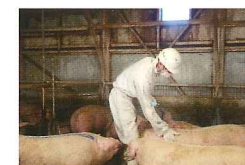
肥育



90日から出荷まで、おいしい肉になる餌を与えます。銘柄豚には、そのコンセプトに合った飼料が。



新鮮な水と餌を確実に口にできるように毎日チェックします。



出荷する時には一頭一頭直接確認し、最適な時期を選びます。

出荷



出荷体重を1頭ごとにチェックし、110～115kgの範囲で出荷。当社専用のトラックで、食肉処理工場へ運びます。



食の安全性の確保は、出荷時でも欠かすことのできない要素です。防疫には細心の注意を払っています。

養豚事業③

環境との調和、地域との共生。

あらゆる企業活動において、もっとも留意すべき点は、地域社会との結び付きを、つねに強固に保っていかなければならないという点にあります。当社では、排気、臭気などの面で、万全の体制を整え、農場と環境との調和をめざしています。近代的な豚舎、糞尿の完全処理、徹底した防疫システムの導入など、環境・公害対策の経費として、当社では全投資額の約2割を投入し、責任を持って地域との共生に取り組んでいます。



青森県横浜町の菜の花フェスティバル

より完璧に近い 防疫体制の確立に成功しました。

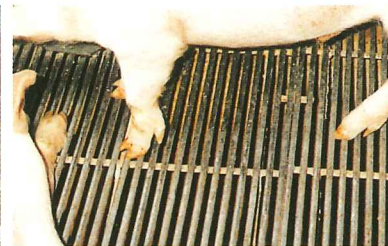
臭気の面では、糞尿からの臭気を抑える技術を開発し、その処理についても、ただちに外部に排出し、有機肥料として利用するために醗酵処理を行うなど、さまざまな工夫や研究開発の成果が導入されています。他の農場からの菌を持ち込まないことによって、私たちはより完璧に近い防疫体制を敷くことに成功しました。それと同様に、農場内の臭気や排水を外部に持ち出さないことも、もっとも留意しなければならない点のひとつと言えるでしょう。

有機肥料の 需要の高まりに応じて。

有機肥料の需要の高まりに応じて、私たちは農場で排出される糞尿を利用した肥料事業を拡大しています。豚舎から出る豚糞を集め、固形分のみを肥料化したものです。農地に施肥した際に土壌菌が繁殖しやすいのが特長です。



大自然に囲まれた農場



糞尿の自動処理を可能にしたスノコ



糞尿処理施設



肥料工場

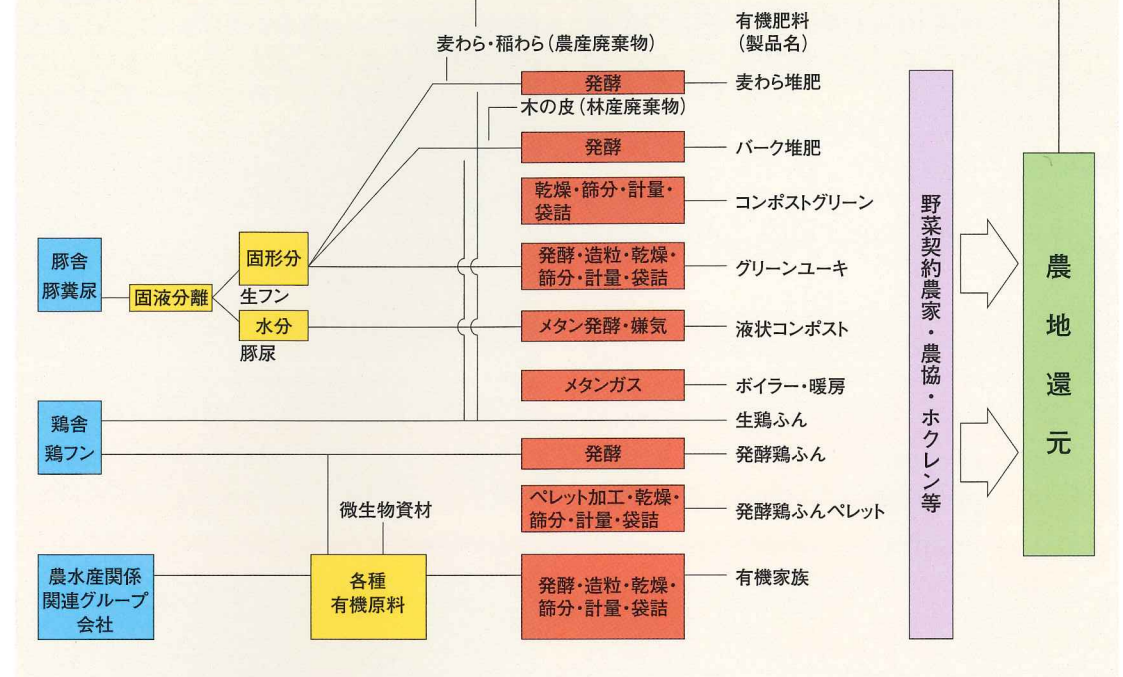


堆肥(コンポスト)の製造

袋詰め製品



糞尿処理の流れ



汚水の完全処理



豚は清潔な環境を好む動物です。豚舎の床形状は、すのこ状になっており、糞がその間を抜けて下に落ちる仕組みとなっています。ほこりもたらず、つねに清潔な状態を保ちます。糞尿は1日に5〜6回、自動化された集糞システムで速やかに排出されます。こうして集められた糞



尿は「肥料として処理し近隣の畑地等に還元」、「嫌気醗酵により発生するメタンガスを利用して発電し農場内で利用」、「浄化槽による浄化」の3つの方法の中から、それぞれの農場ごとの近隣状況に適した処理方法を選び処理しています。

防疫システム

豚の健康のために、私たちは最高水準の防疫システムを導入しています。関係者は飼料配送車も含め、完全に消毒された上で農場への出入りを許可されます。関係者以外の無断立ち入りはもちろん厳禁、「持ち込まない、持ち出さない」を原則として、徹底した衛生管理が行われています。



養豚事業④

国際規格 SQF/HACCP 認証の品質。



SQF(Safe Quality Food)とは！

SQF規格はSafe Quality Foodの略称であり、安全で高品質な食品を確保するための国際認証規格です。SQF規格はオーストラリア行政府によって開発され、安全性を確保するツールであるHACCPと品質マネジメントシステムであるISO9001の要素を組み合わせたシステムです。人の健康に害を及ぼす安全危害だけでなく、製品の品質を損う重要な品質危害についても危害分析を行い、特定の工程を「安全重要ポイントCCP」、「品質重要ポイントCQP」としてHACCPプランを立てるものです。同時に企業が構築した品質マニュアルを文書化し、全従業員に周知し、システムを維持し、検証し、また繰り返し見直すことを要求しています。SQFプログラムは第三者審査機関による定期的な審査が義務付けられて、SQFインスティテュート(本部US:ワシントンD.C.)に1年に1度の再認証登録が行われ、その信頼性が担保されています。

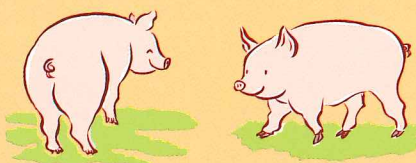


養豚場として日本初のSQF1000認証取得

2012年SQF1000は一次生産から輸送、流通までに至る食品産業全業種向けのSQFに統一されました。

インターファーム(株) 認証取得部門

農 場		認証取得日
知床事業所	第1、第2、第3農場	05.11.08
道南事業所	黒松内、今金、鉛川、柴田、白川、砂原、道南、掛洞、駒ヶ岳、純粋黒豚種豚農場、長万部あやめ農場、生産部運輸課	05.08.29
東北事業所	横浜E、F農場 下田、三戸、鹿角農場	05.03.04
九州事業所	高城農場	05.08.10



SQFの重要ポイント

豚の農場では、
こんな所に注意しています。

安全重要ポイントCCP

- ①異物混入防止
- ②衛生的な豚舎環境維持

品質重要ポイントCQP

- ①規格にあった肉豚選抜
- ②人工授精の精液検査
- ③種豚候補豚の血統管理

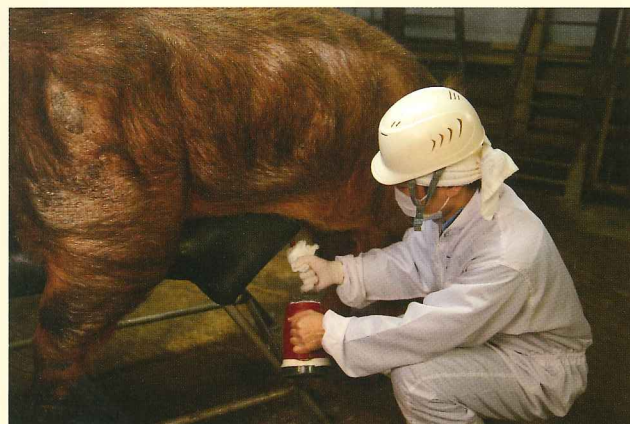
安全で高品質な豚を育てるために



空になった豚房は徹底的に洗浄します。
洗浄ロボットと人による2回の洗浄後、
徹底的な消毒が行われます。



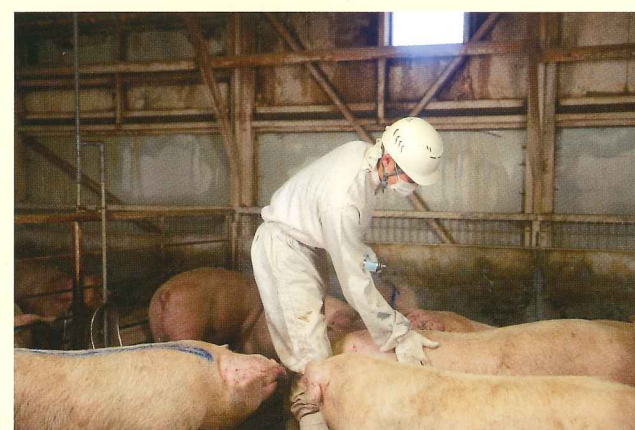
妊娠母豚は広い豚房で自由に動き回り、
分娩を待ちます。



人工授精のための精液は熟練者による
手作業での採取です。



採取した精液はただちに検査し、
良好な精液のみを使用します。



出荷する豚を選抜する際は体重だけではなく、
筋肉・脂肪の付き方も考慮し、一頭一頭確認します。



バーチャル・インテグレーション・システム

そのゆたかな流れは、すべて安心と安定供給のために。

ゆたかな食を追求する 独自のシステム。

食に関する国内外の情勢がつねに変動する中で、食生活の基盤の整備、つまり食料資源を万全の状態に確保することこそ、ゆたかな食を追求していく上での重要なテーマとなってきます。

当社もその一員である日本ハムグループでは、新鮮な食肉製品を大量に供給するために、生産から販売までを一貫して行う「バーチャル・インテグレーション・システム」を導入し食肉事業を展開。そのシステムの中でもっとも川上に位置しているのが、豚肉の生産・飼育を担当する私たちです。

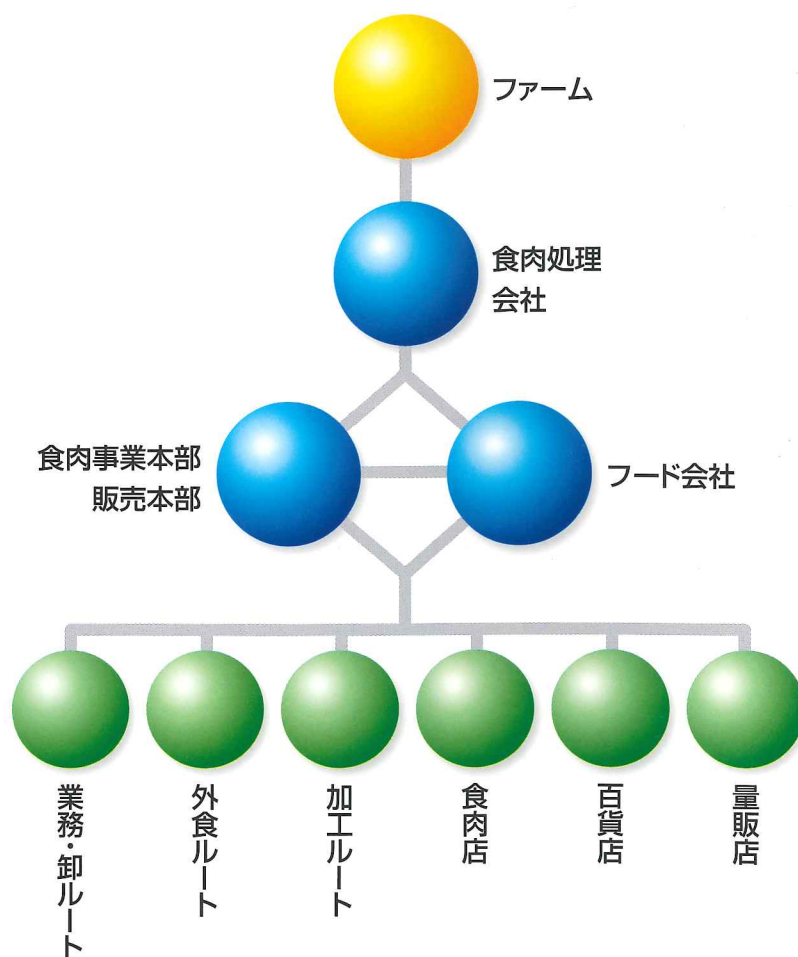
私たちが供給する食肉が製品となって、川下にあたるフード会社へ、そして食卓へと流れていく時、川上から川下までを一貫してグループ企業で展開することのメリット、それは、製品の鮮度が保たれ、需要の変化に対する迅速な対応が可能であるという点にあります。また、それぞれのステージで食肉に対する品質チェックを入念に行うことで、オリジナルブランドとしての責任ある製品を生み出すことが可能となるのです。

ファームは食の大河の源。

私たちは、北海道から東北、そして九州まで、全国で豚を一貫生産。それぞれの地域内に食肉の処理からカットまでを行う食肉処理工場を持ち、その後、製品は販売会社、量販店へと運ばれていきます。私たちからはじまる食の大河は、こうして全国の食卓へとゆたかに流れていきます。



知床の自然に囲まれた事業所



●日本ハム食肉事業のバーチャル・インテグレーション・システム

独自のデリバリーシステムで、鮮度に挑戦。

食肉処理工場で処理された肉は、ダイレクトセールシステムを通じて、スピーディに各店頭へと届けられます。また、販売のためにスーパーなどで調理をしたりする手間を省くため、あらかじめポーションカットした形で納入ができるように、産地・バック工場や消費地内のデイルーパック工場を利用して、得意先の要望に対応できる体制を整えています。輸入物についても、東京・大阪に設置されている国際物流センターからフード会社を通じて、出荷後1日で店頭へ届けられていきます。このように、消費者が求めるものを供給できるよう、私たちは生産から販売までをストレートに結ぶ事業体制をとっています。こうしたデリバリーシステムの充実によって、農場での計画的な生産が生きてくるのです。

日本ハムの
物流
システム



鮮度最優先で販売。

食肉処理工場から出荷された肉は、すべて産地直送体制のもとに、鮮度最優先で販売されていきます。インテグレーション・システムにより、鮮度を重視した物流が可能になり、高品質な製品を食卓へお届けできるのです。



マーケティングを フィードバック。

商品開発にあたっては、販売の最前線である小売店からのご要望を生かすことも重要になります。販売を担当するフード会社を通して、さまざまな情報をキャッチし、開発に生かしています。こうして作られた新しい製品は、定期的に開催される展示会の場で発表されることになります。

事業所所在地

知床事業所

知床第一農場	
知床第二農場	
知床第三農場	北海道網走市
環境部	
総務課	

道南事業所

鉛川農場	北海道二海郡八雲町
柴田農場	
道南農場	
駒ヶ岳農場	
掛洞農場	北海道茅部郡森町
砂原農場	
白川農場	
今金種豚農場	北海道瀬棚郡今金町
黒松内農場	北海道寿都郡黒松内町
長万部あやめ農場	北海道山越郡長万部町
預託農場	
環境部	北海道二海郡八雲町
総務課	

東北事業所

下田農場	青森県上北郡おいらせ町
六戸農場	青森県上北郡六戸町
三戸農場	青森県三戸郡三戸町
鹿角農場	秋田県鹿角市
横浜E農場	青森県上北郡横浜町
横浜F農場	
環境部	青森県上北郡おいらせ町
総務課	

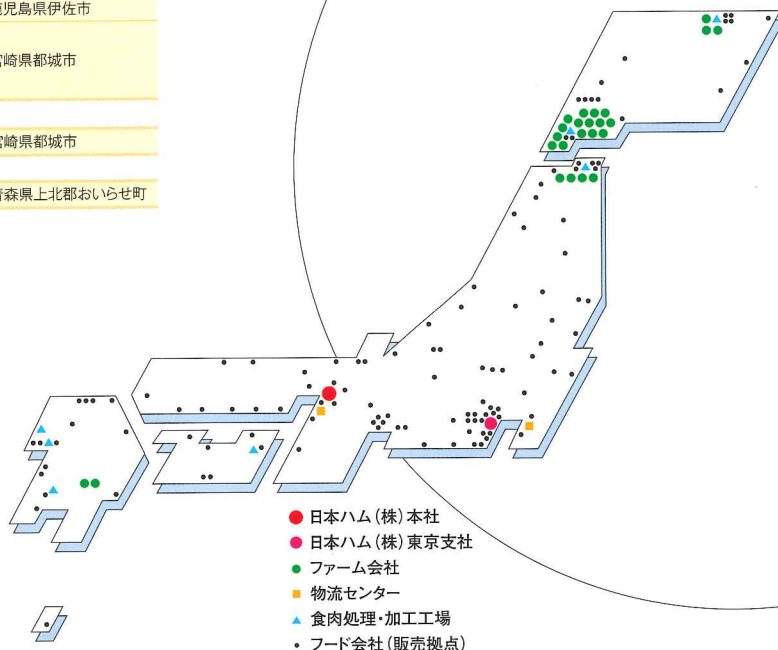
九州事業所

高城農場	宮崎県都城市
春口農場	宮崎県えびの市
柳田農場	宮崎県西諸県郡高原町
中間農場	鹿児島県伊佐市
預託管理課	
環境部	宮崎県都城市
総務課	

獣医務統括室 宮崎県都城市

管理本部 青森県上北郡おいらせ町

日本ハムのインテグレーションを
構成する全国の事業拠点



インターファーム 本社



知床第二農場



知床第三農場



横浜農場



三戸農場



高城農場



道南農場

インターファーム 株式会社

本社／〒039-2206 青森県上北郡おいらせ町松原1-73-1020 TEL.0178-52-4182 FAX.0178-52-4187

知床事業所

〒099-3118 北海道網走市豊郷229-5 TEL.0152-46-2290 FAX.0152-46-2351

道南事業所

〒049-3123 北海道二海郡八雲町字立岩54-1 TEL.0137-62-3727 FAX.0137-64-3752

東北事業所

〒039-2206 青森県上北郡おいらせ町松原1-73-1020 TEL.0178-52-4182 FAX.0178-52-4187

九州事業所

〒885-1205 宮崎県都城市高城町石山3239-1 TEL.0986-29-2051 FAX.0986-58-5039